

IEC/TC108/HBSDT会議より

50 回目となる、IEC/TC108/HBSDT会議が、コペンハーゲン（デンマーク）にて、2025年4月1日から3日間開催されました。対面の会議は2022年秋の会議から2年半ぶりであり、Covid-19が終息してからとしては初めてとなるこの会議には、13の国や地域から39名のエキスパートの参加があり、活発な審議が行われましたので、その報告をいたします。

【IEC/TC108が所管する規格の解釈に関して】

IEC/TC108では所管する規格の解釈に関し、各国の国内委員会等から寄せられた質問等に関して審議しており、その結果のほとんどはIEC/TC108が発行するINF文書として発行され、IECEEのホームページのIECEE Decisionsの一部として掲載されます。ここでは今回の会議で審議した事項の一部を紹介します。

プロフェッショナル機器のサービス又はメンテナンス時において、過熱した部分に触れる必要がある場合の（保護手袋の使用などに関する）要求事項の明確化について提案がありました。審議の結果、具体的な状況を説明する必要があることが指摘され、文書の見直しをすることとしました。

AC 主電源のライン間またはライン-中性線間に接続するコンデンサは、火災の危険に対する保護が必要なコンポーネントであり、G.11に従わなければならないことを明らかにする提案があり、その趣旨が採用され、INF文書として公開する予定としました。

PS3回路の炎の拡散の抑制において、防火用エンクロージャ内にある可燃性材料は、V-2材であることなどの難燃材が求められます。しかしながら、実際の機器のエンクロージャはPS3回路の制限区域（防火用エンクロージャが必要となる部分）を越えて、防火エンクロージャが不要となる部分まで広く部品を囲んでいる場合があります。この制限区域外にある部品には、そのような難燃材の要求は適用しなくて良いことを明らかにする提案が、前回会議からの継続審議案件としてありました。審議の際、制限区域を説明するための図の変更が求められたことから、次回会議に向け見直しすることとなりました。

【IEC 62368-1の改正審議】

IEC/TC108ではIEC 62368-1第4版の改正作業に取り掛かっています。会議では以前の会議から継続して審議している案件も含め多くの改正提案等がありましたので、その一部を報告します。

- ヒューズを用いて電力をPS2に制限する場合の要求事項を変更する提案（以前より審議している、LPS（附属書Qの要求事項を満たす回路）には、6.4.6（PS3 回路における炎の拡散の抑制）で規定する防火用エンクロージャを要求しないとする内容も、この提案の審議に含まれることとなりました。）

- リチウム電池に備えるべき防火用エンクロージャは、そのセルに必要であり、電池として必ず備える必要がないとする提案
- 個人用携帯オーディオプレーヤ（PMP）の音響出力は、原則として、最大音響ばく露量に基づき制限する方法だけを用いることとし、最大音響出力で制限するのであれば、その限度値を80dB(A)とする提案
- オーディオ信号を分類するための最大のノンクリップ出力を決定する際の条件として、定格負荷インピーダンスで2秒以上消費できる最大の正弦波電力とする提案
- バリスタの試験を行う際、電流パルス8/20 μ sを使用することも可能であるとする提案
- 附属書 Jで参照している規格、IEC 60851-3の2009版を最新の版(2023年版)に変更する提案

【IEC 63315 第1版に関して】

IEC/TC108では通信用のケーブルを用いて60Vまでの直流を情報通信技術機器等の通信ポートから給電する機器、及び受電する機器に対する、安全性の要求事項を定める規格として IEC 63315 の作成を進めています。このプロジェクトは IECが定めるタイムラインを超える可能性が高く、CDV（投票用委員会原案）の文書を伴う形のNP（新業務項目提案）となる可能性があることが報告されました。

【今後の予定】

次回（2025年秋）会議をIEC総会の一部として、IEC/TC108/HBSDT 会 議 及 び IEC/TC108/Plenary会議をデリー（インド）で開催する予定としています。また、2026年春はIEC/TC108/HBSDT会議を日本で開催する予定としています。

【お問い合わせ先】

（一財）電気安全環境研究所
電気製品安全センター
E-mail: center@jet.or.jp